

令和3年度地方創生推進交付金事業の評価について

1. 河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

少子・高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への一極集中を是正し、活力ある社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されたことを受けて、本市では、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、本市人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び地域の実情に応じた5か年の施策の方向を提示し、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立と、その好循環を支える「まち」の活性化を図る「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」）を策定しています。

総合戦略の取り組みのうち、令和3年度は、2事業について国より地方創生推進交付金の交付を受け、事業を実施しています。

2. 事業の概要

(1) 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

①背景

本市は、昭和50年前後に開発団地が数多く整備され、住宅購入適齢期の住民が同時期に転入したことから、特に急激な高齢化の進行が見られ地域の活力の低下が現れ、地域の拠点となるスーパーの撤退が相次ぐなど、生活利便性の低下が顕著に表れています。そのため、生活の利便性を補完できる生活拠点とそれらの地域間の連携を創出し、それぞれの特色を生かしたまちづくりの実現が急務となっています。第5次総合計画では、特に開発団地が連なる市南部地域の玄関口に位置し、一定の生活利便施設が整う南花台を「丘の生活拠点」として位置付け、開発団地の再生モデルの構築と周辺地域の生活拠点化を図るため、「多世代の住民が、生きがいを持ちながら、元気に住み続けることができるまちづくりを目指した『咲く南花台プロジェクト』」を実践しています。

②実施内容

令和3年度は、引き続き「咲く南花台プロジェクト」を推進しながら、自動運転による移動サービスについては、10月に地域住民主体による自動運転運行の実証事業を開始し、12月からは有償運行を開始するなど、事業を推進するとともに、UR集約型団地再生事業による跡地の活用として、子どもが安心できる遊び場や多世代交流機能を備えた丘の生活拠点に相応しい公園整備の検討を行いました。また、南花台における商業店舗と連携したまちづくりをモデルとして、イズミヤ河内長野店4階において河内長野市地域まちづくり支援拠点を令和3年4月2日より運営を開始しました。

(2) 地域活性・交流ハブ拠点化推進事業

①背景

本市では、人口減少、少子高齢化が伸展しており、子育て世代を中心とした定住人口の確保が最大の課題となっています。また、転出が増加しており、要因として小売り事業者をはじめとした事業所数の減少など市内での就業場所の減少があげられています。市内産業及びまちの

魅力の減退を回避するため、市域の7割を森林が占める豊かな自然、3つの「日本遺産」などの歴史・文化など、市への良好なイメージの定着を進め、観光産業の創出等を通じ定住人口と交流人口の増加を図るため、観光地域づくりの推進に取り組んでいます。その結果、観光入込客数は年々増加に転じ、観光によるまちづくりは進んできていますが、今後は、地域内産業の活性化や雇用の創出につなげるとともに、市民の愛着の醸成、また、子育て世代を中心とした転入促進につなげていく必要があります。

②実施内容

本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまるの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざします。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざします。

令和3年度は、コロナ禍により計画通り事業を進めることが非常に困難でしたが、本市の観光資源・地域資源をPRするための雑誌への広告掲載を行い、市内外からの観光誘客を促進しました。また、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、おおさか河内材の利用を促進するための補助金制度を整備し、利用拡大につなげました。

3. 評価の概要

今回の行財政評価委員会では、総合戦略の主な取り組みとして、令和3年度に地方創生推進交付金の交付を受けた事業について、市で実施した内部評価に対し、外部の視点で評価していただきます。

評価対象事業	評価資料（送付資料）
要素事業	
「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業	○総合シート
（要素事業1） 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業	○評価シート ○（参考資料）令和3年度地方創生推進交付金の実績概要
地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	○総合シート
（要素事業1） 観光誘客促進事業	○評価シート ○（参考資料）日本遺産のまちPR広告
（要素事業2） 木のある暮らし推進事業	○評価シート ○（参考資料1）おおさか河内材活用支援補助チラシ ○（参考資料2）おおさか河内材利用実績 ○（参考資料3）おおさか河内材活用事例

4. 評価の方法

「総合シート」・「評価シート」及び添付資料により、事業の内容を確認いただき、「総合シート」に記載の事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために、評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点から、「評価シート」の下記部分について評価をお願いします。

【委員会評価】①～③を選択してください。

【評価等に対する意見】事業に関するご意見等を記入してください。

【「評価シート」・委員会評価 欄】

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

<参考：評価シートについて>

■総合シート

交付金事業ごとに、事業全体の目標や数値目標（KPI）等について記載しています。

事業名称等	交付金事業の名称、事業全体の目標及び概要を記載しています。
数値目標及び実績	事業全体の数値目標（KPI）と、その実績を記載しています。また、指標の状況及び今後の事業全体の考え方について記載しています。

■評価シート

事業を構成する要素事業ごとに、具体的な事業の内容や行政の内部評価、今後の課題等について記載しています。

実施事業	評価年度に実施した具体的な取り組みの内容について記載しています。また、その成果について、できる限り具体的な数値で表せるよう、参考指標を示しています。
担当者評価	評価年度に実施した取り組みが、交付金事業の目標及びKPIを達成するために効果があったかとの視点より事業担当部署が評価を行い、その評価内容についてコメントを記載しています。
改善	今後の課題や取り組みの方向性について記載しています。
委員会評価	本委員会にて評価いただきたい箇所です。 取組事業が事業の目標・KPI達成するために「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」より選択してください。